

校長通信「R6三野津」NO9



令和7年1月8日（水）

明けましておめでとうございます。令和7年のスタートです。

私は毎年、正月には箱根駅伝を見て応援しています。青山学院大学が優勝しましたが、この大学を応援というわけではなく、頑張っている人を見るのが好きで全体を応援しています。頑張る人を見ると、「自分も頑張らなくては」と力が湧いてきます。（他の出雲駅伝や実業団駅伝、マラソン中継もよく見ます。

箱根駅伝の場合、テレビ局がよく取材をしていて、駅伝の勝敗だけでなく選手や選手を支えた人々の気持ちまで取り上げてくれているので、より感動が大きくなります。今年、心に残った言葉を抜き出してみました。

- 「自分だけのためじゃ、そこまでがんばれない。」 青山学院大 鶴川選手
- 「僕がここまでこれたのは本当にみんなのおかげ。僕も人として成長できた。悔いなく走れた。楽しかったです。」 城西大学 久保出選手
- 「非常に苦しい1時間だったんですけど、充実した1時間だった。やり切れてよかった。」 青山学院大 若林選手
- 「シード権ギリギリのラインで、プレッシャーかかって苦しく、本当にきつかった。でも、最後4年生のためにシード権とれてよかった。」 東洋大学 薄根選手

なぜ感動したり、心に残ったのだろうと考えたら、次の2点だと思いました。

- ★自分以外の人のためにがんばったという内容
「自分だけのためじゃ…」 「4年生のために」
「みんなのおかげ」 など
- ★悔いなくやり切った、だから充実していたという内容
「悔いなく走れた」 「充実した1時間」
「やり切れてよかった」 など

皆さんにとって令和7年が、自分以外の人のためにも頑張り、悔いなく充実した年になるように祈っています。

箱根芦ノ湖にある箱根駅伝往路ゴール（復路スタート）石碑→

